非核の政府を求める大阪の会ニュース

非核の政府を求める大阪の会　豊島 達哉　梅田 章二
発行 〒542-0012 大阪市中央区谷町7-3-4（新谷町第3ビル210号）
TEL.06(6765)3032　FAX.06(6765)3033
URL・https://hikaku-osaka.jp/
E-mail・hikaku-osaka1986@kind.ocn.ne.jp
hikakuosaka@hotmail.com

第227号　2025年 5月1日

被爆の実相を若い世代に引き継ぐ

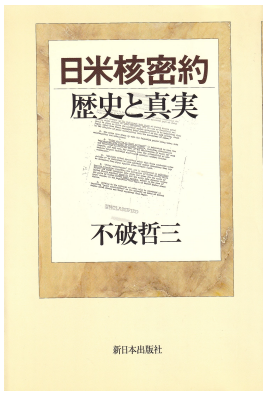
当会常任世話人・山川美英氏の被爆体験

大阪原水協主催の若者企画「第6回ひばくしゃの話を聞く会」が開催されました。寝屋川市原爆被害者の会会長で当会常任世話人の山川美英さんのお話、「私の被爆体験と思いを語る」を紹介します

山川さんは大阪空襲で焼け出され、疎開先の広島で、爆心地から1.5㎞、現在の広島市平和大通りとなっている疎開道路の建設作業中にお母さんとともに被爆、4歳8か月の時だったが、お母さんからは何も聞かされず、そのことを知ったのは中学1年生になってからだったこと。お母さんは、やけどを負いながら火の中を逃げる途中、写真やニュース、絵などで明らかになっている惨状を目の当りにし「生きて地獄を見た」と。お母さんは当時35歳でよく覚えていて、あんな地獄の中で、大勢の人がなくなっている中で自分だけ助かったと、逃げるときに、「水をくれ」「ここに伝言してくれ」と、いろいろ言われたけれど、私だけが助かって申し訳ないと、ずっと亡くなるまで言っておられたとお話下さいました。また、山川さん自身も、差別と偏見で苦しみ、結婚するときには、お相手の親から大反対され、子どもの病気の時には放射線の影響ではないかと心配もした、10年前には、大病を患い、いつ死ぬかと思いながら、アメリカ政府か、日本政府が、「あのときは申し訳なかったな」と、一言謝ってもらいたい。そのために僕は生きていると。日本政府は、原爆を投下された時、1回だけスイス政府を通じてアメリカ政府に抗議文を送っているが、それ以後の10年間は被爆者に対して何の手立てもしなかった。今でも、放射線に対する治療の方法というのは、なかなかないが、それでも、早期に何らかの手当をしていれば、こんなに多くの人が亡くなることはなかった。原爆症認定や黒い雨も被爆者と被爆体験者として被爆者を分断し差別している。また、日米安保条約のもたらす様々な弊害のこと、原発の平和利用がまやかしであり、核兵器が一発でも使用されたら核抑止論が成り立たないこと、日本国憲法の大切さなど、核兵器禁止条約が発効した現在、原爆は「人として生きることも人として死ぬことも許さない悪魔の兵器」で人類と共存できないから核兵器は廃絶しかないと語られました。参加者は、高校生、若者を含めて19名でした。

【非核五項目】
①全人類共通の緊急課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
②国是とされる非核三原則を厳守する
③日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する。
④国家補償による被爆者援護法を制定する。
⑤原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する

非核・平和の本を読みませんか！



3月6日、トランプ米国大統領は、記者団に対して「われわれは日本を守らなければならないが、日本はわれわれを守る必要がない」と述べて、日米安全保障条約の内容に不満をにじませましたとの報道がありました。安保問題がマスコミに大きく取り上げられ久しい感があります。改めて安保問題を考える機会だと思います。当会は安保については、明確な態度（課題としての方針化）を示してはいません。非核の五項目で一致することを設立当初からとっています。

この方針から安保を考える点で重要な示唆を示す名著が不破哲三氏の『日米核密約―歴史と真実』です。

本著の「まえがき」の表題に「日米核密約の探求に取り組んで」とされています。そのねらいについて「核戦争と核兵器に反対する被爆日本国民の要求と、その日本を核戦争の基地として利用しようというアメリカ軍政首脳部の要求は、絶対に両立できるものではありません。その矛盾をいりくんだ虚構の体制で覆い隠し、日本国民をあざむいて、国民には日本が核兵器持ち込みなどとは無縁な国であるかのように見せかけながら、現実には、核兵器を積んだ軍艦や飛行機が自由に出入りして、核戦争計画のために日本の海と空を自由自在に利用できるようにする――こういう目的で、1960年、日米両国政府の合作でつくりあげたのが、「日米核密約」の体制でした。・・・現在まで、すでに五〇年間、…日本を支配し続けてきたのです。」

不破氏は国会議員になったのちも意識的に調査し、「核密約」の構造を追求してこられました。その一定の成果をまとめたのが本著です。目次を紹介します。

一、核密約問題が「非核の日本」への焦点となっている
二、日米安保条約と核密約
三、核密約下の日米関係史
四、これからが日本の「非核」化の正念場
五、「非核の世界」めざし被爆国の声をいまこそ

これに続いて「核密約はこうして結ばれた」、「2000年・日米核密約国会論戦」、〔資料編〕核密約に関する日米間交渉――米政府が公開した外交文書からどの章も魅力的なタイトルがついています。

自民党政権は、「核密約」の存在を認めません。民主党政権は「密約」文書の存在は認めましたが“アメリカの軍事戦略が変わったもとでは、「核密約」はもはや過去の問題となった”と「核密約」の廃棄をしません。

日本国民の「非核の日本」を求める国民的願望を実現するためには、改めてトランプ政権下での日米安保、その本質的な日米核密約を明らかにしていく必要があります。

シリーズ大阪における国民平和大行進

1983年の平和行進…大阪から発した統一への裏切り・分裂策動を乗り越える平和行進（7.2-10）（中）

6月1日の第4回作業グループ打ち合わせ会議で、大阪総評の見解が明らかになってきました。大阪総評としては、「統一労組懇は認められない」との意見。大阪原水協は、昨年（1982年）の10.24大阪行動に際して、大阪総評から統一労組懇に対して、公的に申し入れを行った経過があることを指摘し、矛盾した姿勢を明らかにしました。さらに6月8日の第5回作業グループ打ち合わせ会議で大阪総評は、統一労組懇の旗だけではなく、リレー旗についても配慮してほしい。統一労組懇は敵対、破壊団体であるので困る、統一労組懇の旗が立てられたら問題がおこる、たとえば実力で引きずりおろすとの発言がありました。大阪原水協は、統一労組懇は総評を破壊しようとする方針はもっていない、その発言の取り消しを要求しました。（この問題については非公式発言として処理することになりました。）6月11日の第6回作業グループ打ち合わせ会議で日程・コースが決定、「旗」問題については生協側から、20年ぶりの統一平和行進を成功させたい、旗については双方、自粛の立場で努力してほしい、との要望がでました。6月22日の第7回作業グループ打ち合わせ会議は、平和行進の細目が確定、

沿道に貼られた東大阪原水協と東大阪統一労組懇の歓迎ステッカー

「旗」問題は引き続き生協の意見、日本山妙法寺の意見の表明があるなかで、大阪総評は、統一労組懇の旗が持ち込まれる限り参加しない、混乱があるかぎり降りる、この事態を８３年世界大会準備委員会がどう判断するかまかせたい、との発言。原水協は大阪総評の発言は関西・大阪の打ち合わせ会議の確認事項の立場にたっていない、作業グループ打ち合わせ会議での配慮することを確認し、配慮の中味はそれぞれの団体が自主的にきめることだと発言しました。結局、「旗」問題は協・禁の両者で話し合うことになりました。

６月２２日非公式の協・禁の打ち合わせ会議で軍縮協から、統一労組懇の団体表示（横断幕・腕章を含む）について総評側を説得したが、いかなる形態であれ、統一労組懇の団体表示は認められないという結論にいたったことを表明。２８日の２回目の協・禁非公式会議で、軍縮協は本日の理事会で団体排除はしないこと、横断幕が出ても参加することを確認する予定であると述べました。３０日、軍縮協から電話連絡が原水協にあり、２８日の軍縮協理事会で大阪総評を説得したがダメだった、奈良方式（１つのコースを三団体が各自に行進する）は二日間ならともかく八日間は無理との連絡であった。７月１日の第８回作業グループ打ち合わせ会議は今までの意見の繰り返しになり、一致点を見いだせないまま、１６時より大阪原水協（新宮）と軍縮協（南野）会談を開催、次の合意が行われた。①統一労組懇の旗をどうするかについては意見の一致をみなかった②８３年平和行進は成功させるよう努力しよう③協・禁としてこれを中央に報告し、その判断をまつ④問題があれば別途協議して解決する、という内容であった。１９時３０分、作業グループ打ち合わせ会議が再開したが、新宮・南野合意をめぐって解釈の違いが明らかになりました。軍縮協は①の「旗」問題が一致しなかったので、③により決着を中央に求めた、と主張、原水協は①から④全体について報告し、それについて見解があればそれをうけて、必要があれば別途協議、検討する、というものだと主張しました。７月２日第９回作業グループ打ち合わせ会議を１０時から奈良からの引継ぎ場所の柏原市民会館で開催。中央の結論待ちとなったが、準備委員会として組織決定は物理的に無理があり、大阪作業グループが中央の結論待ちで合意していることを前提に、中央事務局の佐々木案として次のことが提案されました。大阪府内の行進は、準備委員会横断幕１本、４本のスローガン旗、日本山ののぼり旗のみで実施する、というものでありました。それに対して、日本原水協はこの案に賛成しているのか、これは決定として受け止めるべきものなのか、などの質問に、電話連絡しただけであくまでも佐々木案、決定ではなく準備委員会の立場は地元の協議が基本であり、地元の合意ができなければこの案は自然消滅するもの、との回答でした。佐々木報告を受けて作業グループ打ち合わせ会議は、佐々木案は継続討議とし、行進については現場協議でとりあえず出発させることになりました。奈良の行進団が到着。１３時、準備委員会の横断幕は原水協（新宮）、軍縮協（南野）で出発しました。団体旗問題は不一致のまま、府下の行進が開始されることとなりました。当然、原水協・平和委員会の隊列はすべての団体旗を掲げ、大阪統一労組懇は、中央統一労組懇のリレー旗と大阪独自の横断幕を掲げて行進しました。八尾市役所に到着、島崎地協事務局長が大阪総評へ抗議、作業グループ打ち合わせの場で軍縮協から旗を降ろさないと出発できない旨の通告がありましたが、そのまま八尾を出発しました。途中で軍縮協からの要請で統一労組懇の横断幕を隊列のうしろに移し、東大阪入りに際しては、横断幕を自主的におろしました。この日の行進は無事におわりました。（次号）

▲右端：新宮良正原水協代表理事、その横は市民生協代表の被爆者浅野哲人氏、左端が南野昌明軍縮協事務局長（7.2 柏原）

大阪から　被爆者も参加のビキニデー

昨年はビキニ被爆70周年でしたが、今年はビキニ被爆については71年でしたが、昨年暮れに日本被団協がノーベル平和賞を受賞したことに加えて、今年が広島・長崎被爆80年の節目の年であり、非常に内容の濃いビキニデーでした。

全体で2月28日の日本原水協集会には１０００名が参加、3月1日は１８００名が参加しました。大阪からは2月28日が26名、3月1日が30名の参加でした。

2月28日の日本原水協集会では、昨

年から取り組んでいる非核日本キャンペンの取り組みが各地などで取り組んだ報告があり、参考になりました。特に大阪原水協が今年重点として取り組みを予定している「被爆者の気持ちよりそうプロジェクト」と同様の取り組みをしている長野県原水協の取り組み報告は今後の取り組みに参考になりました。また、1月に日本原水協と日本被団協でスペイン・フランスの報告も注目を集めました。

3月1日は、午前中は墓参行進と墓前祭に参加しました。今年も天気が良く気温も高く、行進日和で気持ちよく行進できました。午後からのビキニデー集会は運営にも若い人が中心になって行われました。焼津中央高校合唱部と静岡うたごえ協議会によるうたごえや静岡の高校生たちの発言などが感動をよびました。特に日本被団協がノーベル平和賞を受賞したことを祝い、参加されていた被爆者に壇上で花束が贈呈されました。大阪からは2名（寝屋川市原爆被害者の会）が参加され花束をもらい、喜んでおられました。

▲被爆者を先頭に墓参行進に参加

見学会

大阪原水協　橋口紀塩

京都大学複合原子力科学研究所に参加して

昨年に続いて見学会に参加しました。

午前は、原子燃料工業熊取事業所の施設公開に訪れました。会社の説明に参加される職員は昨年に比べて少ない人数でした。昨年は所長さん自ら説明されていましたが、今回は直接説明されてはいませんでした。

松山先生が質問されました。排気ダクトの付近に大量のウラン鉱石粉末が残っていた問題についてでした。会社側の説明は、「何重ものフィルターの手前で外部への粉末の排出はない。」というものでした。フィルターの前だとしても粉末が堆積し、それを長年放置していたことについての弁明はありませんでした。

昨年に比べて同事業所の職員のみなさんの態度に良い意味での緊張感が少ないのではと感じました。原子力発電所の再稼働が認可された政策の影響があるのではと推察します。

ウラン鉱石を加工して核燃料ペレットを製造している事業所に対して、市民の注目、監視がやはり必要であると感じました。

▲お花見を兼ねて勉強してきました（4月5日）

桜満開のもと昼食を取り、交流会がありました。寝屋川からお二人の被爆者の女性が参加されていました。ご自身の体験からこの見学会については複雑な感情を持たれているのではと察しました。肩ひじ張らず淡々と毅然としてご自身の体験を語られました。圧倒されました。ニューヨークの行動に参加したこと、国際会議の際には、再度渡米したいと語られました。

お孫さん2人（小学5年生と中学3年生）を連れられて参加された女性がおられました。次の世代に原子力発電の内実、核の利用、被爆体験等が伝えられたことは、貴重な機会でした。

午後は、京都大学の原子炉を見学しました。科学研究における放射線利用について、紹介がありました。

京大の催し物の一つに「フレミングの霧箱」の実験がありました。物理で学習しましたが、実験を直接体験したことは初めてでした。放射線の軌跡を見ることができました。多くの方が見学会に参加されることを願っています。

太田弘司

初夏にむけてのとりくみ

【非核の会】

❖非核の政府を求める会第39回総会

日時：6月7日（土）13：30～17：00

会場：全労連会館

【関係団体】

❖第69回大阪母親大会

日時：5月31日（土）12：45～　大会協力費：1200円

会場：クレオ大阪中央

記念講演：世界中にひろめよう憲法9条」

―抑止力ではなく話し合いこそが未来を拓く―

ダニー・ネフセタイ氏（元イスラエル軍兵士・木工家具作家・平和活動家）

❖第18回松元ヒロ＆西谷文和　テレビでは見られないここだけのコラボ

日時：6月20日（金）18：30～

前売り券2000円、当日券2500円、学生・障がい者1000円

会場：吹田市メイシアター　中ホール

❖国民平和大行進

日時：6月30日　柏原出発集会　7月7日　兵庫県引継ぎ